

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業支援アプリの活用



【児童の変容】

- 毎日さまざまな学習の中でタブレットを使用することにより、タイピング能力が上がり、パソコンの操作方法についても習得
- 発表が苦手な児童も、自分の考えをジャムボードやスライドにまとめることにより、発表することのハードルが下がり、生き生きと発表できるようになった。
- 発表のハードルが下がったことで、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることに喜びを感じる意欲的な児童が増えた。
- 学習に必要なリンクを貼り付けておくことで、個々の児童が自分に必要な学びを選択することができ、個別最適な学びの場を提供することができた。
- 学習の過程で、友達の学習状況を参照することができ、取り組みにくい児童がそれを参考にしながら、学びを進めていくことができた。
- 以前は、45分の学習時間の中で発表できる児童は限られていたが、他者参照が容易になり、短い時間で多くの友達の考えを共有することができるようになった。
- チャット機能を使うことで、児童同士の教え合いが容易にできるようになった。
- 理科などでは、すべての実験をしなくても、グループ等で分担し、実験の様子や結果を動画や写真、スライドにまとめることで、共有することができるようになった。